最優秀賞

小児集中治療室で取り組む特定行為実践とタスクシフト
～効率的で安全・安心な看護の提供を目指して～

東京都立小児総合医療センター

東京都府中市
561床／職員数 925 名（うち看護職員数635名）

課題・背景

①小児の専門病院という特性から処置やケアの難易度が高く、成人では看護師が行う**診療の補助業務の多くを医師が担う**
②医師のマンパワー不足によりタイムリーな処置の実施が困難。**PICU（小児集中治療室）では、医師待ちで看護業務の進行が滞る傾向**
③日勤帯で業務が完了せず、**時間外業務が発生**

最大**8時間**の待ち時間
看護師 1名あたり時間外勤務　**3.4時間 / 月**

施設背景
・2019年に点滴作成に関する業務のタスクシフト実施済
（**看護師から薬剤師へ業務移譲**）
・2020年3月に特定行為研修修了生が誕生

目的・目標

患者に対して必要な医療・ケアの安全、タイムリーな提供

・看護師から薬剤師のタスクシフトによって得られた時間を活用し、**医師から看護師へのタスクシフト**に取り組む
・医師と看護師の連携強化 ▶ **チーム医療の推進**を目指す

取り組み内容

① 医師からPICU看護師への診療の補助業務のタスクシフト

対象とする診療の補助業務
〇採血ポートからの動脈血採血、血ガス測定
〇中心静脈・動脈圧ライン交換
〇気管内チューブ固定テープ交換

安全に診療の補助業務を実施するため

1）実施する看護師の選定

「**小児の集中治療に関わる看護師のクリニカルラダー(PICUクリニカルラダー）**」の**ラダーⅣ以上のスタッフを対象**とした

2）教育体制の整備

技術取得のための指導者※を設置
▶看護師の不安を軽減し、対象とする診療の補助業務を安全、適切に実施するため
※PICUクリニカルラダーレベルⅣ以上のスタッフで主任級の立場の者から選定

技術マニュアル、動画、チェックリスト　を作成
▶詳細な手順を効率よく指導・手順の統一化するため
特定行為研修修了者、集中ケア認定看護師、医師が協力

■教育の流れ

STEP1	STEP2	STEP3
マニュアルの熟読	手技のシミュレーション	患者への手技を確認 5回実施で合格 ※医師立ち合いのもと

▶ 計 **2,192** 件 **181.9** 時間/年 の **医師の業務時間削減**

②特定行為研修修了者による実践

▶特定行為研修修了後、指導医と共に院内マニュアルを整備
▶院内の特定行為調整委員会で承認を受ける
▶医療スタッフへ周知のうえ特定行為の実践を順次開始

実施した特定行為
- 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置調整
- 侵襲的陽圧換気の設定の変更
- 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮痛薬の投与量の調整など12行為

※実施後は患者のバイタルサイン・覚醒状態を観察、適宜医師に報告

カンファレンスでの情報共有

多職種カンファレンス
コメディカルを含めた多職種での情報共有

ベッドサイド
3分間ディスカッション
医師・看護師

▶ 計 **387** 件 **239** 時間/年 の **特定行為を実践**

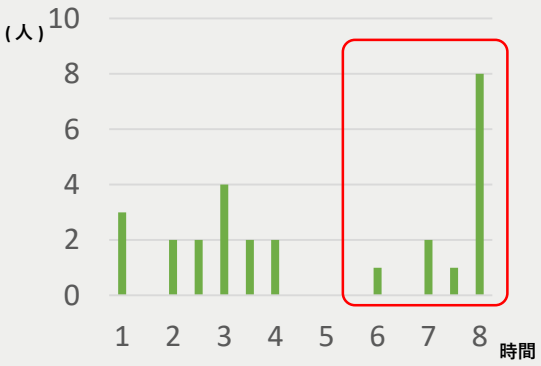
患者の苦痛・バイタルサインの変動等にタイムリーに介入
▶事故抜管のリスクを軽減
▶MDRPU（医療関連機器圧迫創傷）の予防と早期発見

成果・効果

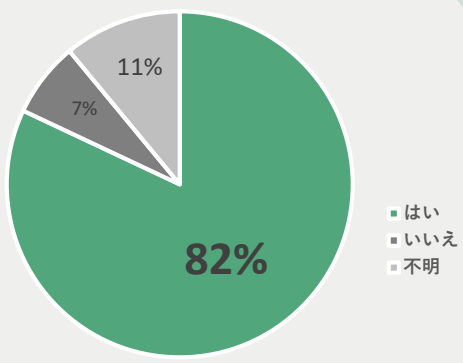
①看護師の待機時間の短縮

▶タスクシフトにより医師業務を420.9時間／年 削減
▶タイムリーなケアの提供を実現　看護師の時間外業務時間が1名あたり**1.4**時間/月 **削減**

気管内チューブ固定テープ交換依頼後に医師を待った時間（取り組み前）



看護師が診療の補助業務を実施することで処置がタイムリーにできていると感じるか



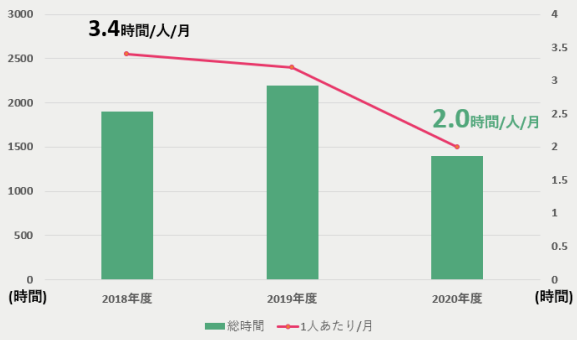
②安全・安心な看護

▶安全性を担保しつつ取り組みを進めたため
- **インシデント0件**
- **MDRPU発生率が低下**（66%→38%）

③看護師の満足度の向上

- タイムリーなケアの実現で時間外業務が減少し**看護師の精神的・身体的負担の軽減**
- 医学的な見識を深め、3つの診療の補助業務を実施することで**看護実践能力が向上**

④医師と看護師の連携強化

- 医師－看護師のカンファレンスの時間が増加
- 医師と看護師の相互理解が深まった

時間外業務の推移